



学校だより 6月

令和3年5月31日 横浜市立芹が谷南小学校

新たな視点をチームに

学校長 高木 篤子



校門前の池のスイレンが、空に向かって花開いています。新年度が始まり、2か月経ちました。1年生の挨拶の声が次第に大きくなり、嬉しく思っています。なかよし活動・委員会活動・クラブ活動も始まり、交流と高学年の活躍の場が広がっています。

さて、今回は4月に本校に着任した3名の教職員に、学校や子どもたちなどについて、新たな目で見えて感じたことを聞いてみました。

Q：柴副校長先生、学校の様子や特色をどのようにとらえていますか？

給食室で子どもたちが、礼儀正しく生き生きと挨拶をして、互いに気遣い声を掛け合いながら当番の仕事をしている様子は、見ていてとても気持ちがよいです。いろんな場所で子どもたちとすれ違いますが、いつもいっぱい笑顔がはじけています。

職員室では、先生方が日々子どもたちのよりよい学びのために準備をしています。ICT活用にも挑戦し、授業の進め方などあちこちで意見交換し、レベルアップにつなげています。職員全体で子ども一人ひとりを見守り、育てようとする空気を感じます。

PTAの皆さんや、学援隊をはじめとした地域の皆さんも、せりなんの子どもたちの安全・安心や成長のために心を砕き、コロナ下ではありますが日々、様々な工夫して取り組んでくださっています。

Q：宇治田先生、教師となってどんなときにやりがいや喜びを感じますか？

いちばんは、授業をしているときに子どもたちから「わかった！」という声が聞こえると、私も嬉しくなり次も頑張ろうと思えます。

また、授業中や休み時間など、どんなときでも、にこにこ笑顔で楽しそうに活動している子どもたちの姿が見ることができると、教師になってよかったなと感ずることができています。

Q：近江先生、本校に着任して感じたことや、これからやりたいことは？

新年度、子どもたちが登校してきたとき、昇降口に立って様子を見ていました。すると、最初は不思議そうな顔を浮かべた子どもたちでしたが、すぐに「おはようございます。」と元気な声で挨拶をしてくれました。まだ、名前も知らない先生に元気づく気持ちのよい挨拶のできる子どもたちがとてもすてきなと感じました。

当たり前のことを当たり前でできる、そんな子どもたちと一緒に、日々の授業を創り出したり、遊んだりしていきたいなと思います。

新たな視点から学校を見つめ、話し合っって多角的に考え、チームで学校づくりを進めていきます。職員会議や各部会、学校運営協議会をはじめ様々な場面で学校教育について共に考えて検討しながら、学校教育目標具現化に向かって歩んでいきます。